

【テーマ】進化していくデジタル技工に対する準備・対策・対応

西山 浩行(株式会社 KDRiabo)

約 20 年前、ジルコニアが歯科材料として認可され、今では金属材料の代替材料として必要不可欠な材料として認知されている。2012 年からは保険治療において CAD/CAM 冠が保険適用となった。そして、今年 6 月の保険改定を経て IOS を用いたデジタルデータでの CAD/CAM インレーも保険適応となり、今後段階的に適応範囲も拡大されていくと予想され、これから如何にしてデジタル機器を扱っていかねばならないかは言うまでもない。弊社は 2013 年に開業し、そこから 10 年を経て 50 人規模のラボとなった。10 年の間で 2 回移転し、現在 200 坪のフロアで運営している。開業当初は完全アナログのラボ経営であったが、今日に至るまでにラボスタッフが「アナログマインド」から「デジタルマインド」へ変化するにあたりソフト面、ハード面における多くの課題に直面し、乗り越え今がある。

今回は弊社がデジタル化に対してどう考え経営・運営を行ってきたか、また、近年の歯科技工士不足問題・働き方改革についてこれからのラボ経営についてどう考えていくかを提案させていただきたい。